

【県内美術館・記念館めぐり】

行ってみんな、来てみんな〜⑦⑦

海と山が育んだ歴史を伝える

西海市大瀬戸歴史民俗資料館

学芸員 松永朋子

西海市大瀬戸歴史民俗資料館は、九州の西端、西彼杵半島の西岸、長崎市と佐世保市を結



「家船」の模型の展示

ぶほぼ中間に所在しています。西方海上には、池島や大島、天気が良い日には遠く野母崎半島や五島列島を望むことができます。南北約13キロメートルに伸びるリアス海岸を持つ当該地域は、古くから平戸・長崎・天草等を結ぶ海道であり、海上交通の要衝、対外交流の交易路網として重要な役割を果たしてきました

た。当該地域には、縄文・弥生時代の遺跡、中世の石鍋製作所、江戸時代末期の沿岸防備跡など多数の遺跡が点在しています。

本館は、西海市大瀬戸町の歴史と民俗の保存・公開を目的とした資料館です。展示室では、大瀬戸町から出土した土器や石器などの考古資料、大瀬戸町に伝来した文書などの歴史資料、当該地域に暮らした人々が使用した道具などの民俗資料を主に展示しています。特に力を入れているのが、国指定史跡である「ホゲット石鍋製作遺跡」出土遺物に代表さ

れる石鍋と、船舶に居住して漁業を営んでいた「家船（えぶね）」の展示です。前者の石鍋は、本州から南西諸島まで広範囲に流通した煮炊き用の厨房具で、熱伝導率が高く保温性に優れていることが特徴です。西彼杵半島は良質な滑石の産地であったことから、滑石で様々な道具を製作し、中世には石鍋を特産品として全国に流通しました。後者の家船と呼ばれる人々は、かつて大瀬戸町を拠点として暮らしていました。本館の展示資料である「家船由緒書」には、家船と大村藩の主従関

係、土地の支配者から漁業権を与えられていたことだけではなく、近世以降では大村藩による海上警備などの役割を務めていたことなどの記述が残っています。

他にも、大瀬戸町には魅力ある歴史がたくさんあります。資料館には様々な資料が展示されていますので、機会がありましたらぜひお越しください。

【住所】西海市大瀬戸町瀬戸西浜郷61-1
【電話】0959(37)0267
【開館時間】火・金曜日
は10時〜18時、土



日曜日は9時〜17時
【休館日】月曜日、祝日、年末年始（12月29日〜1月3日）
【料金】無料
【アクセス】JR長崎駅より長崎バス「瀬戸板浦（桜の里で乗り継ぎ）」行き乗車（90分）「西浜」バス停下車
【駐車場】無料（2台）